第１７回（令和６年度）　卒業証書授与式
式　　辞

冬の寒さも和らぎ、春の訪れも感じられるようになったこのよき日に、
ご来賓の皆様のご臨席を賜り、ここに埼玉県立新座柳瀬高等学校　第１７回卒業証書授与式を挙行できますことは、この上ない喜びであります。

１７回生の皆さんは令和４年４月に本校に入学しましたが、私も同じ時期に本校に着任しましたので、校長として皆さんの成長を３年間見守り続けることができましたことを大変うれしく思います。

３年前の入学式がつい先日のことのように思い出されます。月日の経つのは本当に早いものですね。
本日、ご卒業を迎える１７回生の皆さん、ご卒業、誠におめでとうございます。
教職員一同、皆さんの卒業を心から祝福いたします。

晴れの卒業にあたり、私から一言、はなむけの言葉を贈りたいと思います。

埼玉県出身のお笑い芸人　ゴルゴ松本さんは「選ぶ（英語の”choice”）」の「選（せん）」という漢字を取り上げ、このような話をしています。
「選」という字には、「己（おのれ）」が２つ、「共（とも）」が１つ、そして「之（しんにょう）」がある。人間は何かを選ばなくてはならない時、まずは「己」で考え、時に人に相談して「共」に考え、最後は「己」で決断し、進んでいく。

人生は、大小さまざまな選択の連続と言っていいでしょう。皆さんは選択科目が他校よりも多い新座柳瀬高校に進学し、多くの科目選択をしながら高校での３年間の学びを修了しました。
「自ら考え、時に人に相談し、最後は自ら決断して進んでいく」
そして選んだ以上、その責任は自らが負わなければなりません。

皆さんは、知らないうちに、本校で選択のトレーニングを積んでいたのかもしれません。これからもまだまだ選択は続きます。時には重大な選択や苦しい選択をしなければならないこともあるでしょう。

しかし、選択の結果、うまくいかなければ、他人のせいにするのではなく自らを見つめ直し、もう一度やり直せばいい。そして、うまくいった時には、自らを支えてくださった方々への感謝の念を思い起こしていただきたい。皆さんならきっとできるはずです。

最後に、保護者の皆様、お子様の高校生活３年間の支え、大変お疲れさまでした。
生徒の多くは既に成人の年齢に達しているものの、まだまだ人生経験が不足しているかと存じます。本日で私どもの学び舎から巣立っていきますが、独り立ちできるまでどうぞよろしくお願いいたします。

卒業生の皆さんと、そして皆さんをここまで支え、導いてくださったすべての方々のご多幸を祈念し、式辞といたします。

令和７年３月８日

埼玉県立新座柳瀬高等学校　校長　伊藤　孝人

選